

【事業実績】

1. 県内博図公連携モデルを用いた情報の収集・調査

(1) 共通テーマに関する情報収集

情報収集事業として、博物館・図書館・公民館の連携による事業と博物館・図書館・公民館以外の機関との連携による事業を、縄文文化及びお浜降りそれぞれのテーマについて実施した。

①博物館・図書館・公民館による縄文文化にかかる情報収集事業（情報収集1）

■企画会議

- ①日程 令和元年5月17日（金）
- ②会場 千葉県立中央博物館
- ③内容 令和元年度の縄文文化とお浜降りにかかる情報収集・調査事業と情報発信事業について事業担当者から説明し、意見交換を行った。

■縄文文化事業打合せ

第1回

- ①日程 令和元年6月6日（木）
- ②会場 千葉県立中央博物館
- ③内容 令和元年度からの5ヵ年計画の事業について、また令和元年度の縄文文化にかかる事業について担当者から説明し、意見交換を行った。



▲縄文文化事業打合せ

第2回

- ①日程 令和元年12月11日（水）
- ②会場 千葉県立中央博物館
- ③内容 縄文キャラクターの選定と令和2年度の事業予定について担当者から説明し、意見交換を行った。

■お浜降り事業打合せ

第1回

- ①日程 令和元年6月6日（木）
- ②会場 千葉県立中央博物館
- ③内容 令和元年度からの5ヵ年計画の事業について、また令和元年度のお浜降りにかかる事業について担当者から説明し、意見交換を行った。

第2回

- ①日程 令和2年2月5日（水）
- ②会場 千葉県立中央博物館
- ③内容 令和元年度の事業報告と令和2年度の事業予定について担当者から説明し、意見交換を行った。

■「J1 グランプリ 2019」（縄文遺物人気投票）

実施内容

まず県内市町村教育委員会からエントリー遺物を推薦いただいた。投票は一般の方々を対象に、県内全ての図書館、公民館、及び歴史系を中心とする博物館等のおよそ500館で実施した。

実施日程

- ①エントリー遺物の受付 令和元年5月17日（金）～6月14日（金）
- ②人気投票実施期間 令和元年8月1日（木）～9月30日（月）

実施結果

- ・ エントリー遺物は、各市町村から計33件あった。
- ・ 投票総数は、6,657票であった。
- ・ 投票結果は、第5位まで公表した。グランプリは石器（富津市前三舟台遺跡出土）だった。

小括

子どもを含む一般の県民の方々に、縄文文化について興味・関心をもって頂くとともに、その興味・関心の方向性を把握することができた。特にグランプリの石器は子どもたちに圧倒的人気であり、理由を聞くと、「キラキラ光って綺麗だから」「格好いい」との回答が多かった。



▲「J1 グランプリ2019」ポスター



▲投票の様子（中央博）



▲集まった投票用紙



▲結果発表パネル（中央博物館）



▲千葉日報（令和元年9月24日）



▲日本経済新聞（令和元年8月1日）



▲千葉日報（令和元年12月26日）

■縄文キャラクターの募集

実施内容

「J1 グランプリ 2019」と並行して実施した。応募は、投票と同じ箱に入れるか切手を貼って送る形式とした。選定は、あらかじめ実行委員会で定めた要領により実行委員会が行った。

実施日程

- ①キャラクター募集期間 令和元年 8 月 1 日（木）～9 月 30 日（月）
- ②結果発表 令和 2 年 2 月 21 日（金）

実施結果

- ・応募総数は、393 件であった。
- ・キャラクターは、「フカバッチ」に決定した。

小括

応募者はほとんどが県内在住者で、子どもも多かった。遺物の人気投票「J1 グランプリ 2019」のエントリー遺物からイメージを膨らませたもの、中でも個性的な土偶や土器をモチーフにした作品が多く、人気投票とは異なる興味・関心の方向性が明らかになった。また、縄文に興味がなくとも、公民館や図書館など日常的に使う施設でポスター・チラシを目にした人が、縄文について想像を巡らせながら気軽に描いて応募して下さった様子が想像でき、有意な情報収集が行われたと考えられる。



▲縄文キャラクター「フカバッチ」



②博物館・図書館・公民館によるお浜降りにかかる情報収集事業（情報収集 2）

■神輿の写真・動画募集／写真パネル展

実施内容

お浜降り写真パネル展として 21 枚の写真パネルを掲示し、あわせて県内神輿写真及び動画の募集を告知するポスターを掲示し、またチラシを配布した。この事業の本格的な実施は次年度以降の計画である。

第 1 回

- ①会場 さわやかちば県民プラザ ギャラリー
- ②日程 令和元年 10 月 26 日（土）～10 月 30 日（水）（開催日数 4 日間）
※11 月 23 日（土）までの予定であったが、設備トラブルにより休所となった。
- ③来場者数 468 人

第 2 回

- ①会場 県立中央博物館 歴史展示室前廊下
- ②日程 令和 2 年 1 月 5 日（日）～2 月 7 日（金）（開催日数 29 日間）
- ③来場者数 4,486 人

小括

アンケートは取らなかったが、多くの人が足を止めてパネル展示を見てくれた。千葉県にこのような祭りがあることを全く知らなかったという声も聞かれたので、次年度以降、さらに内容を充実させて展示件数を増やし、併せて県内神輿写真及び動画募集を行っていく。



▲さわかちば県民プラザにおける展示状況



▲県立中央博物館における展示状況

③博図公以外の教育機関などと博図公が共同で行う縄文文化にかかる情報収集事業 (情報収集3)

■県外保管資料調査

実施内容

第1回

- ①場所 國學院大學博物館（東京都渋谷区）
- ②日程 令和元年8月29日
- ③内容 野田市教育委員会、鎌ケ谷市教育委員会、県立中央博物館が共同で実施。岩井貝塚や余山貝塚などの県内の縄文時代出土遺物が良好な状態で保管されていること、詳細な整理作業の行われていない資料が収蔵庫にも保管されていることが確認できた。

第2回

- ①場所 南山大学人類学博物館（愛知県名古屋市）
- ②日程 令和2年1月29日
- ③内容 鎌ケ谷市教育委員会、県立中央博物館が共同で実施した。姥山貝塚や二ツ木向台貝塚など県内の縄文遺跡の出土遺物が多く展示されているほか、収蔵庫に未整理の多量の遺物が保管されていることが確認できた。



▲國學院大學博物館



▲南山大学人類学博物館

■縄文文化情報収集事業（人骨分析）

実施内容

千葉県教育委員会から草刈遺跡（B・H区）、三輪野山貝塚の人骨を、県立房総のむらから余山貝塚、矢作貝塚、草刈貝塚（Q区）の人骨を、鎌ケ谷市教育委員会から中沢貝塚の人骨を、千葉大学文学部考古学研究室から大寺山洞穴の人骨を、それぞれ提供いただき、炭素・窒素安定同位体比分析及び C14 年代測定を行った。分析は東京大学総合研究博物館の米田穰教授に依頼し、指導・助言を受けながら実施した。

実施日程（指導・助言）

- ①令和元年 5 月 8 日：東京大学総合研究博物館
- ②令和元年 10 月 31 日：千葉県立房総のむら、千葉県教育庁文化財課森宮分室
- ③令和元年 12 月 16 日：鎌ケ谷市郷土資料館、千葉県立中央博物館、千葉大学
- ④令和元年 12 月 18 日：千葉県立房総のむら
- ⑤令和 2 年 1 月 17 日：千葉大学

小括

これまで市町村単位や県だけでは実施困難だった県外保管資料の状況調査や人骨分析を連携事業として実施することができ、単に個別の新たな情報が得られただけでなく、比較検討ができる有意な情報も得ることができた。次年度以降は今回の連携の経験をもとに、更なる連携の深化と得られる内容の充実を図っていく。



▲実施状況

④博図公以外の教育機関などと博図公が共同で行うお浜降りにかかる情報収集事業

（情報収集 4）

■千葉県神社庁を通じた県内各神社へのアンケート調査

実施内容

千葉県神社庁の理解と協力を得、県内各神社に対しお浜降りについてのアンケート調査を行った。今回は第 1 期として銚子市・旭市・大網白里市・白子町・館山市・富津市の 6 市村計 375 社（宮司 38 名）に配布した。

実施日程

発送 令和元年 10 月上旬

回収 令和元年 10 月 9 日～12 月 3 日

実施結果

回収 141 通（回収率 38%）。

お浜降り有の回答（9 件）

小括

千葉県神社庁の全面的な協力により全県下でのアンケート調査を計画し、今回は試行として6市町で実施した。台風の影響もあり回収率が低く、有意な回答が一定数得られたものの、全体的には手間にあわない結果になったといえる。千葉県神社庁の理解を得、協力をいただいたことは今後に結び付く成果であるが、来年度以降の調査の進め方には検討・修正が必要である。

■現地調査

実施内容

事務局において県内のお浜降り行事の代表的な事例を現地調査し、特徴を分析することを通して、今後の調査の方向性を検討した。またパネル展示に使用する写真の撮影を行った。

実施日程

- ①佐原本宿八坂神社祭礼 令和元年7月14日
- ②白間津のオオマチ 令和元年7月19～21日
- ③鶴原大名行列（八坂神社祭礼） 令和元年7月26・27日
- ④遠見岬神社祭礼・八幡神社祭礼 令和元年9月14～16日

小括

お浜降りの神事は一様でなく、神社縁起や祭神を知り、歴史的・民俗的に分析することにより類型化の可能性があることがわかった。今後、他機関と調査を進めていくうえで、重要な視点を得ることができた。



▲佐原本宿八坂神社祭礼



▲白間津のオオマチ



▲鶴原大名行列（八坂神社祭礼）



▲遠見岬神社祭礼・八幡神社祭礼



2. 県内博図公連携モデルを用いた情報発信

(1) 共通テーマによる体験事業の実施

博物館・図書館・公民館の連携により縄文文化をテーマにした体験事業を実施した。

①縄文文化に関する体験事業の実施（体験事業1）

■「ドキドキ縄文体験」（縄文文化体験事業）

実施内容

県内の図書館・公民館に希望を募り、13館（うち1館は台風で中止）で実施した。勾玉作りのほか、実物の土器や石器などに触れさせ解説を行った。千葉県教育庁文化財課の協力を得た。

実施日程

- ①令和元年8月5日 佐倉市立志津公民館（参加者19名）
- ②令和元年8月8日 我孫子市湖北地区公民館（参加者33名）
- ③令和元年8月22日 君津市立中央図書館（参加者29名）
- ④令和元年8月29日 佐倉市立中央公民館（参加者20名）
- ⑤令和元年9月8日 匝瑳市立八日市場図書館（参加者18名）
- ⑥令和元年9月14日 鴨川市立図書館（参加者13名）
- ⑦令和元年9月29日 成田市下総公民館（参加者15名）
- ⑧令和元年10月6日 我孫子市我孫子地区公民館（参加者37名）
- ⑨令和元年10月6日 柏市立図書館（参加者9名）
- ⑩令和元年10月13日 白井市立図書館（台風により中止）
- ⑪令和元年10月16日 習志野市大久保公民館（参加者20名）
- ⑫令和元年10月19日 野田市立南図書館（参加者19名）
- ⑬令和元年10月26日 印西市立そうふけ公民館（参加者22名）

小括

合計254名の参加を得た。習志野市立大久保公民館では高齢者学級の一環として実施したが、9館が小学生のみの参加、3館が小学生と保護者の参加による実施となった。アンケートでは高い満足度が伺え、今後も土器づくり、石器作り、火おこしなどの縄文体験を希望する回答が多かった。実施館からも好評であり、社会教育施設の連携事業が、新たな施設利用者の掘り起こしにつながっているとの声が寄せられた。当事業に併せて近隣地域の縄文遺物や関連図書の展示を行う館もあり、各施設の業務の充実につながった。



▲実施状況（八日市場図書館）



▲土器や図書の展示（柏市立図書館）

(2) 共通テーマに関する講座の開催

博物館・図書館・公民館の連携により縄文文化及びお浜降りをテーマにした講座を開催した。

①縄文文化に関する講座の実施（講座1）

■「縄文セミナー2019」

実施内容

「自然と人間のかかわりを学ぶ」をテーマとして、遺跡から出土する貝殻や動物の骨、植物の種実などから、縄文時代の人々の自然利用について考察し、縄文時代への理解を深める講演会を行った。また、講演の終了後に「J1 グランプリ 2019」の結果発表式を行った。

①会場 千葉県立中央博物館

②日程 令和元年 12 月 14 日（土）

③内容 「旧石器時代から縄文時代にかけての古環境―関東地方を中心として―」

西内 李佳（千葉県立中央博物館）

「加曽利貝塚出土資料からみた縄文時代の自然利用」

佐藤 洋（千葉市立加曽利貝塚博物館）

「微小貝類からみた加曽利貝塚の特徴」

黒住 耐二（千葉県立中央博物館）

「縄文時代の鯨類利用について―現代の鯨類研究の視点から―」

田邊 由美子・宮川 尚子（千葉県立中央博物館）

小括

開場前から受付の前に行列ができ、開場してからも常に補助席まで満席で、定員 150 名の会場に、のべ 197 名もの参加があった。アンケートによれば、参加者には中高齢者の男性が多く（9 割が 50 歳以上、7 割が男性）、もともと縄文に興味を持つ人が、今回のテーマに関心を持って参加したことが伺える。考古学と自然誌のそれぞれの立場から多角的・専門的な発表に対し、満足度も高かった。情報発信事業として一定の効果があったと言える。一方、中高齢者の男性以外の層を呼び込む広報手段について、課題が残った。



▲講演実施状況（佐藤洋氏）



▲J1 グランプリ発表

①お浜降りに関する講座の実施（講座2）

■「お浜降りセミナー2019」

実施内容

「房総の『お浜降り』を考える」と題し、2回に分けてお浜降りに関する講演会を実施した。1日目はお浜降りとは何かという概説的な内容、2日目は神輿巡行の歴史、お浜降りの意義、福島県の事例との比較をテーマにした。

第1回

①会場 東葛テクノプラザ（さわやかちば県民プラザから急遽変更）

②日程 令和元年 11 月 23 日（土祝）

③内容 「東日本のお浜降り行事」菊池 健策（東京文化財研究所）

「神輿が海に帰る祭り―房総のお浜降り点描―」高橋 克（江戸川大学）

記録映像上映「房総のお浜降り習俗（普及編）」（文化庁作成）

④来場者数 26 人

第2回

- ①会場 君津市立中央図書館
- ②日程 令和元年12月1日（日）
- ③内容 「神輿の起源と祭礼」笹生 衛（國學院大學）
「お浜降り習俗と「潮」の民俗」田村 勇（日本民俗学会）
「福島県浜通りの浜下りと漂着神伝承」佐々木 長生（元福島県立博物館）
記録映像上映「南相馬市男山八幡神社のお浜下り」（南相馬市博物館作成）
- ④来場者数 51人

小括

「房総の『お浜降り』を考える」と題し、回を重ねることによりお浜降りへの理解を深めていく連続講座として企画した。祭礼に関心のある一般県民や市町村教育委員会文化財関係者等の参加があり、遠方から連続で参加して下さった方もいた。また単なる情報発信のみならず、連携館関係者の情報共有と研鑽の機会とした。

会場では、県立図書館によるお浜降り関連本（ブックリスト）の展示、お浜降り写真パネル展も実施したことにより、お浜降りについての理解がより深まり、更なる興味・関心を促す効果もあったと考えられる。



▲講演実施状況（菊池健策氏）



▲関連本（ブックリスト）の展示

3. 同一市町村内での博図公連携モデルを用いた連携事業と情報発信

（1）地域素材を生かした地域内連携モデルによる情報発信

八千代市において地域の文化財を活用した情報発信事業を博図公連携で実施した。

① お散歩マップの作製による地域情報の発信（地域ガイド）

実施内容

「ぐるり八千代おさんぽMAP～上高野・下高野地区～」5,000部を作成し、市内公民館、図書館にて配布

② 見学会の開催（地域見学会）

実施日程と内容

令和元年11月21日（木）吉橋城と周辺地域の歴史についての現地見学及び講義

令和元年12月19日（木）吉橋地区の自然についての解説

令和2年1月10日（金）村上地区の神楽の解説及び見学

令和2年2月5日（水）保品地区の自然についての解説

③ 地域をテーマにした展示（地域紹介展示）

実施内容

平成29年度に地域ごとに作成した「あの町・この町」パネルを、定期的に交代し年間を通して、八

千代市立郷土博物館で展示を行った。

小括

公民館との連携は順調に進んでいる。図書館との連携事業について検討しているが、課題として残っている。

4. 連携システムの検証と修正

(1) 博図公連携事業の検討

事業計画を検討し、実践の成果を検証した。

①検討会の実施

■実行委員会

第1回

①日程 平成31年5月17日（金）

②会場 千葉県立中央博物館

③内容 令和元年度からの5ヵ年計画の事業計画について事業担当者から説明をし、意見交換を行った。

5. 成果物

(1) 千葉県立中央博物館

- ①「J1 グランプリ2019」「縄文キャラクター募集」ポスター（500部）
- ②「J1 グランプリ2019」「縄文キャラクター募集」ちらし（50,000部）
- ③「神輿の写真・動画募集（お浜降り情報収集）」ポスター（6枚）
- ④「神輿の写真・動画募集（お浜降り情報収集）」ちらし（1,000部）
- ⑤情報収集ボックス（500個）
- ⑥「縄文セミナー・お浜降りセミナー」ちらし（15,500部）
- ⑦情報収集事業報告書（データによる作成）
- ⑧お浜降り写真パネル（21枚）・説明パネル（2枚）

(2) 千葉県立中央図書館

- ①ブックリスト（200部）

(3) 八千代市立郷土博物館

- ①お散歩マップ 5,000部